

夫婦の伴侶性を築けなかったツケ  
—中年夫婦の危機について考える—

家庭問題情報センター 山口 美智子

明さん（五十七歳）が相談室に悄然とした様子で来られました。「妻から突然離婚を切り出され、どうしてよいかわからない」と言われます。  
明さんは、結婚三十年の会社員。長女は結婚、二女は就職でそれぞれ独立。二年前から妻の晴美さん（五十五歳）と二人暮らしです。

明 二人で話していても平行線です。言い争

いの拳句、妻は二女のアパートに行ったま帰ってきません。困りました、何を言っても通じなくて。

力（カウンセラー） 全く思い当たることがないのですか。

明 そう聞かれると……そうとも言い切れません。

考えてみれば、あまりいい状態ではなかったんです。でも、三十年も経つと、こんなものかなと。この年になって、離婚なんて考えもしませんでした。

力 晴美さんは深刻だったのですね。

明さんはその気持ちの強さに気づかなかったということなのかしら。

明 気にはなっていたんです。しかし、私は家族のために頑張って生活を支えてきたのに、妻の言い分はあまりに一方的です。妻に、なぜだと聞くと、私の思いもかけないことばかりで、その上、子どもたちも妻に同調します。

力 と言うと？

明 妻は、「子育ても家事も夫の協力なしに一人で行って来ました。相談したくとも、あなたには取り合う気持ちがない。そんな生活に疲れました」と言うんです。「母親としての責任は果たしたので、もう自由にさせてほしい」などと。

力 それを聞いて、どう思われましたか。

明 自由にしたいなんて、まるで私が妻を縛り付けていたようで腹が立ちました。

確かに、家事や育児は妻任せのところがありました。でも、今は、子どもたちも独立し自由な時間ができて、それなりに好きなことをして楽しんでいるとばかり思っていました。

経済的にも特に不自由させなかったし、「定年後は嘱託勤務になって時間もできるから、二人で旅行でも」と言っていたんですよ。妻には聞こえていなかったようですよ。

力 明さんの気持ちが伝わっていなかったのですね。どうしてなのでしょう。

明 確かに今まで時間もなしし、じっくり話をすることはなかったです。

仕事の話は妻には分からないし、妻の話もあまり聞きませんでした。子どもが小さいうちは家族で出かけましたが、夫婦だけで出かけることは殆どなかったですね。妻と趣味も合わなかったし、休みの日も、私

はゴルフなどでよく仲間と出かけました。

妻は妻で自由にやっているからいいだろうと。妻のコーラスの発表会に誘われたこともありました。何と私が行かなくてもいいだろう、ぐらいいに思っていました。

**力** ご夫婦と一緒に、パートナーとして行動されるのが本当に少なかったようですね。長い期間、ご一緒に行動されることで培われるものは大きいですよ。

さつき、定年後の旅行と言われましたが、具体的な話をされましたか。

**明** いや。当然喜ぶものと思っていました。特に行き先を話し合うことはしなかったです。

妻は関心がなかったのでしょうか。

**力** お話の様子からは、明さんが独り決めをしておられたように感じますが。

晴美さんが何をしたいと考えていたか、気にならなかったですか。

**明** 離婚を言いだされるまで、あまり気にしていなかったというのが本音です。

考えてみると、最近はずだからと介護のパートを始めていました。経済的に苦しいわけでもないのに。ケアマネージャーの資格講習会にも出ていたようです。

**力** 離婚後の生活を見据えての行動かもしれないですね。

**明** 収入は大したことないし、何も苦勞をす

ることはないのに。

**力** 晴美さんは、経済的な損得ではないと思っておられるのでしょうか。

**明** 妻はそう言います。本気なのででしょうか。

**力** 明さんが考えるほど軽にお気持ちではないと思いますよ。

明さんも、本当は分かっておられるのでしょうか。

**明** そうなんです。こんな事態になるまで、妻の気持ちに目を向けなくて、それが悪かったと思います。

でも、早く言ってくれば、こんな取り返しがつかないことにならなかったのにも思います。

**力** もう、取り返しがつかないことでしょうか。

**明** そうなんですか!? どうしたら良いのでしょうか。

**力** 晴美さんに「あなたの気持ちを受け止めるを得ない」とお伝えになったらどうでしょう。何事も始めるのに遅すぎることはないと言います。気がついた段階でできることをされたらどうですか。

**明** それを言ったら、離婚を認めてしまうような気がして……不安なんです。

**力** 不安はあるでしょう。しかし、相手を知り、分かったことを伝えること、そこからしか、信頼関係を築き直すことはできな

いと思いますが。  
**明** そうですね。まず、理解すること、伝えることですね。

明さんは、「これまで夫婦として、一緒に考えること行動することがあまりも少なかった。不安ですが、妻に向き合ってください」と言っていて帰っていかれました。

人生八十年時代。子育て終了後、夫婦が向き合って生きていかねばならない時間が長くなりました。晴美さんの訴えは、「二人には、これから先の二人だけの時間をともに生き抜くための共通の基盤がない」と言っている、に尽きるように思えます。

この訴えに明さんが真摯に対応できたら、お二人は夫婦の伴侶性を築き直せるかもしれません。

